

小学校
6 年

粘土で生き物の銅像を作ろう

吹田市立山田第二小学校

教科

図画工作

単元名

粘土で生き物の銅像を作ろう

本単元で育む主な情報活用能力

B-STEP3, C-STEP3

E-STEP3, G-STEP3

該当番号の詳細内容は

「大阪府情報活用能力

ステップシート」から確認できます。



単元でつきたい力（ステップシートの項目）

（教科等でつきたい力）

・生き物の皮膚や骨格の様子などを細かく観察して捉え、作品に活かす。

（学校図書館等の活用でつきたい力）

・下書きした生き物を具現化するための情報を集める。

・集めた情報を整理し、必要な情報がどうかを取捨選択する。

単元における学習の展開（全7時間）（学校図書館等を活用した時間に☆印）

第1次 (2時間)	〇「制作する生き物の特徴を調べて、情報の整理を行う」 （☆） ・題材となる生き物を設定するにあたり、どのような生き物であれば粘土の良さを活かした作品になるのかを話し合う。 ・図鑑を使って生き物を調べ、制作する生き物を決める。 ・決めた生き物の骨格や皮膚の様子、関節動きなどの特徴を詳しく調べ、調べた内容を情報カードに記入する。
第2次 (2時間)	〇「集めた情報をもとに、新聞紙と針金で生き物の骨格を作る」 ・情報カード・ワークシートを参考に、新聞紙と針金で粘土の芯材（骨格）を製作する。 ・四肢や触角、指の数など針金で表現できそうな部分を図鑑やタブレット端末を使って調べ、芯材の形をより具体的に表現する。
第3次 (3時間)	〇「ブロンズ粘土で本物そっくりの生き物を作る」 （☆） ・芯材をブロンズ粘土で覆い、生き物の銅像制作を行う。（本時） ・皮膚の様子や顔のパーツのなどを図鑑やタブレット端末を使って調べ、粘土で表現していく。 ・制作した生き物と図鑑の生き物を並べて比較し、さら細かい部分を表現して完成度を高める。

本時のねらい

・自分が制作したい生き物について図鑑やタブレット端末で調べ、生き物の特徴を掴むことができる。

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	学校図書館活用のポイント 及び指導上の留意点
導入 (5分)	1. 本時のねらいや注意点を確認する。 ・ブロンズ粘土の特徴や使用する量について確認する。 ・粘土板や粘土ペラなど、どのような用具が必要かを考える。 ・固くなった粘土に水分を加えながら練り、柔らかくする。 ・図鑑やタブレット端末を汚さないようにするための手順や方法を確認する。	・図鑑等の書籍の特性を理解させ、たくさんの人が長く、気持ちよく使えるようにするためにはどのように扱えばよいのかを考えさせる。
展開 (35分)	2. 自分の作品と図鑑等で示されている生き物を比較し、改善点を考える。 ・制作途中の生き物を様々な角度から観察し、どのような追加情報が必要かを確認する。 ・必要となる追加情報を図鑑やタブレット端末で探す。 ・グループで互いにアドバイスを起こう。 3. 改善点を踏まえて、作品の完成度を高める。 ・使いかけの固くなった粘土に水分を加えながら練り、柔らかくする。 ・追加情報をもとに、生き物のリアルさを追求する。	・皮膚や関節の動きなどの特徴を、たくさんの資料を統合したり比較したりしながら掴むようにさせる。 ・随時、図鑑等を確認しながら、作品作りを進めるように声をかける。
まとめ (5分)	4. 今日の学習を振り返り、次の時間の学習内容を知る。 ・今日の制作状況をグループで報告し、アドバイスを送り合う。 ・余った粘土や使用した用具の片付けを行う。	・次の時間に必要になりそうな資料があるか尋ね、必要な資料がある場合は準備しておく。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・制作をする生き物を決定するときはタブレット端末を使わず、図鑑に限定して調べることで、自分の知らなかった生き物に出会い、同じ生き物の中でも共通している特徴と異なる特徴があることを知ることができるなど、図鑑の持つ良さに気付かせることができた。
- ・学校図書館の本を使用するにあたり、どのようにすればたくさんの人が長く気持ちよく使えるのかをみんなで考える時間をとることで、汚れる可能性がある授業の中でも、効果的に本を活用することができた。



完成度を高めるために、生き物の皮膚の様子や骨格等を、図鑑を使って再確認の様子。